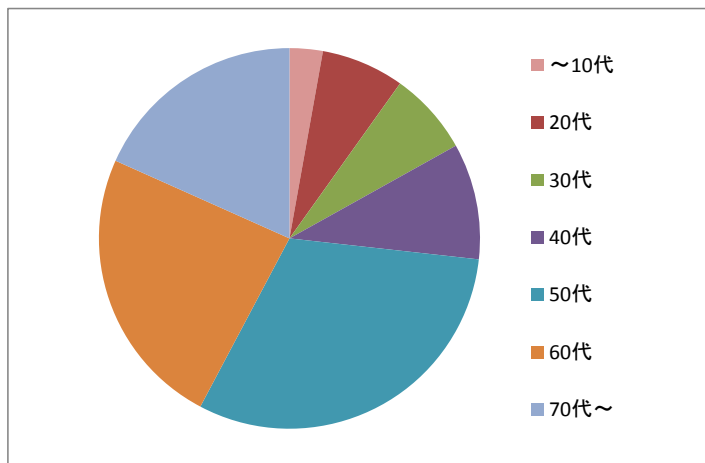


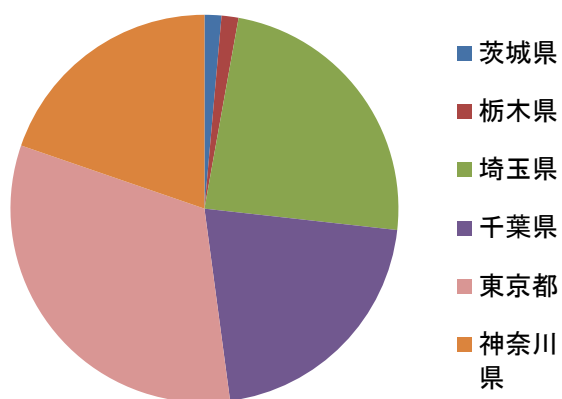
参加者アンケートまとめ(全回答数 75)

◆ 参加者について

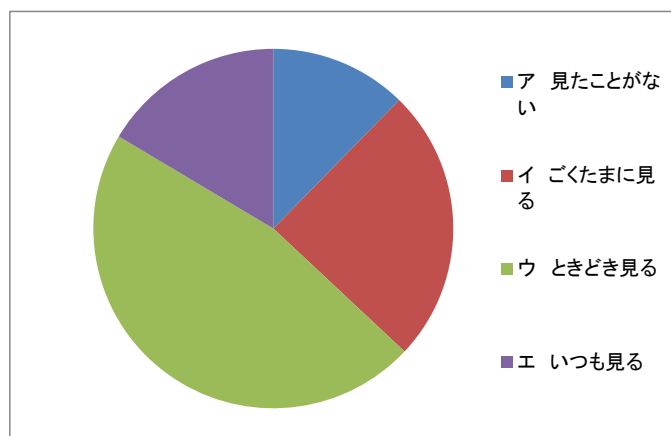
お住まいの都道府県(回答数 71)



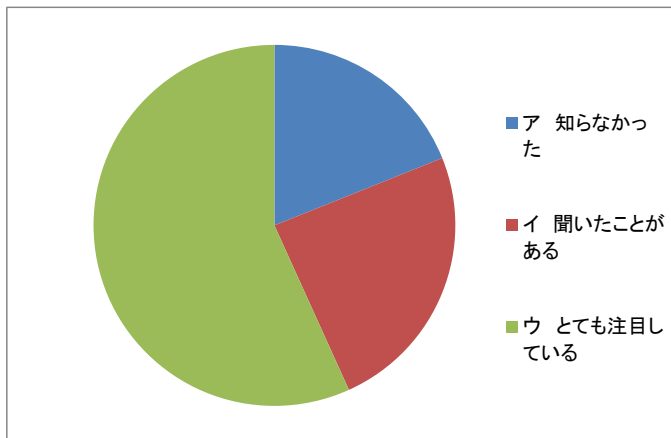
ご年齢(回答数 71)



◆Q ご自身のお住まいの地域やフィールドでオオタカを見たことがありますか？(回答数 73)



◆Q 環境省がオオタカを希少種（種の保存法の国内希少野生動植物種）からの解除を検討していることについて(回答数 74)



種の保存法の指定種解除について、どのようにお考えですか？

「減少している、あるいは絶対数が少ないのでは」

- ・絶対反対。自分のフィールドでは年々営巣地が減っています。これ以上減ることがないように解除には絶対反対です。
- ・反対。まだまだ絶対数が少なすぎるのではないのでしょうか。つい先日も近所の緑道でドバトが捕食された跡がありました。人が通るかもしれない危険な場所まで進出する必要性に迫られている現状を見る限り生息域の保護は絶対に必要だと思います。
- ・指定解除の方針ときくが当該地のフィールドでは傾向とし減少しているとの実感があり、「方向」に対しては疑問がある。
- ・反対 数が実際に安定的に増加しているわけではないので、解除すべきではないと考えます。
- ・今日の報告を聞く限りでは安定した増加傾向にあるとは思えないので、解除は時期尚早だと思う。
- ・居住地で観察している限り、オオタカの数が増加しているようには思えない。

『増加』の理由が不明」

- ・オオタカの“増加”の要因に何が関係しているかもつかんでいかないと単純に個体群の健全な回復と判断できない。

「調査が不足しているのでは」

- ・反対。生息の状況をもっと調査する必要あり。
- ・十分情報を収集できていないので判断が難しい。
- ・反対。全国的な調査は？生態系が不十分。年々悪くなっている。
- ・実際に解除できるまで本当に回復しているのか？オオタカは何羽生息しているのか？
- ・実情のデータが不足しており「解除」は時期尚早です。
- ・解除の目的は新開発と思われるが人口減少、減田が進む世の中で如何なる新開発にも反対する。

- ・反対。もう少し実態を調査して増加が確実であることを立証してからでも遅くはない。

「象徴種としての役割、生息環境保全の重要性」

- ・近年オオタカの生息数は改善されている様であるが、その環境そのものが改善された訳ではないと思う。また、地域生態系の保全指標としても大切である。その意味で現状を守るべきで反対である。
- ・残したいのは身近なさわれる自然なのだと思う。その象徴としてオオタカがいるので、それぞれの思いも強いのだと思います。一種の問題とすべきでないのは共通の認識か。
- ・オオタカが種指定されていることにより、地域の生態系が守られているという話をよく耳にします。そういう意味では希少種指定を継続してほしいです。環境省もよく考えて解除を検討していると思うので、そちらの意見も知ってみたいです。
- ・オオタカが自然な植生の中で生きる真のエコシステムの上位者として存在する緑地のスターに成って欲しい。学問上の図でなくて、本物のピラミッド作りが成される行政に成って欲しい。
- ・反対。オオタカを頂点に守られてきた動植物をどのようにして守っていくのかとても心配である。
- ・なぜ解除しようとするのかわからないので正しく判断できないが環境保全の観点からよくないと思えます。とにかくオオタカが住める環境は人間生活にとってもいいと思うのでそれに反することには反対です(午後のお話しを聞いてわかりました)。
- ・解除には反対である。生態系の頂点に立つオオタカ等を守ることは生態系の保全に役立つと考えているから。
- ・反対。オオタカを守ることはオオタカを含め他の生物を守ることになります。子供たちにも豊かな自然を残すことは子育てする上でもとても大切です。開発に歯止めをかけ自然環境を守る為にもオオタカを解除しないで欲しいと思います。

「全国一律であることの問題点、地域ごとの実情」

- ・解除はいきなり「日本全国何処でも」なのか？
- ・各都道府県レベルで相応の保護法があるなら国として解除しても良いとは思いますが、今の状況(各都道府県レベルで不十分な状況)では解除をすべきではないと思います。
- ・都 23 区内では増加しているので、解除検討は妥当だと思うのが、全国的にはどんな状況かわからないので賛否は何ともいえない。

「解除の根拠が不明」

- ・解除と判断した根拠を知りたい(環境省の)。解除をするとオオタカでまちづくり(環境基本計画、生物多様性地域戦略)をしている市は、どう対応すべきか教えてください。
- ・とにかく現状を知れたのがよかったです。ばく然とオオタカは都市部に増えている、くらいにしか。皆さんの危機感伝わってきました。環境省の解除検討の根拠を詳しく知りたいと思いました。
- ・どのような情報を元に解除を検討しているのか。すぐに解除してしまっても本当に大丈夫なのか(生態系への影響等)。今後個体数が減らないという保証があるのか？

- ・あまり増えているという実感がないため、その根拠について知りたい。
- ・環境省がオオタカを希少種より解除を検討している根拠や裏付けが知り度い。
- ・絶滅危惧種からも解除されるまで増えたならいいのかもしれないが、どういう基準で決めているのかわからないのでなんともいえません。
- ・反対(数が増えてきていることは確実だろうが、解除をする理由がわからない)解除をすることによってオオタカの生態にどのような影響をおよぼすのか知りたい。

「開発との関係、行政の制度・意識の問題」

- ・絶対反対。各都道府県で指針から条例や国の各機関への保護認知度が上がるまで必要と思う。
- ・オオタカが自然な植生の中で生きる真のエコシステムの上位者として存在する緑地のスターに成って欲しい。学問上の図でなくて、本物のピラミッド作りが成される行政に成って欲しい。
- ・解除には反対です。今後の開発を考えると今こそ保護に力を入れるべきだと思います。オオタカが都市に順応した背景とその質についても検討すべきだと思います。
- ・解除されることによる保全への対策弱화가心配。断固反対とは言わないがその希少性が軽んじられることについて強い懸念を持って協議する必要があると思う。今まで指定されていたことによる保全意識への影響力が極めて強いものとする。
- ・開発と環境保全・保護のせめぎあいの中で、オオタカを含む猛禽類の存在が開発推進する側に一定の圧力をかけミティゲーションなど技術的な配慮を生んできたものと思います。今回の発表でも増えているというわけでもなく、指定からはずして従来と同様の対応がなされるとは思えない。状況は後退していくのではないか。

「時期が早い」

- ・解除の時期が早い
- ・反対：その判断には時期が早いと思う。
- ・自然保護全体への影響が大きく、時期が早い。みきわめができていない。
- ・時期尚早ではないでしょうか。十分な調査や検討がなく、にもかからず急いで結論を出そうとするのはなぜでしょうか？
- ・データを共有すべく働きかけることが必要ではないでしょうか。それからの議論に解除を急ぐ必要はない。ていねいな足並み揃えたモニタリングの実施。
- ・反対。時期尚早かと思う。解除された時のリスクが高いため、オオタカがいるから、ということによって保全されている自然地多いはず。解除されると、丘陵地、里山の自然地は大きく損なわれるのでは。
- ・もう少し観察を続けた方が良いでしょう。
- ・今すぐ解除する事は反対。人の住むそばで生きる生物についてはもっと生態や実情を調査していかに距離をとるかの方法まで相談できれば理想。

「種の保存法指定の基準の問題点」

- ・野生生物であるため個体数の増減は必ずあると思う。レッドリスト 2012 ではサシバが上位でありながら種の保存法の対象とはなっていない。

その他

- ・今回、様々な話を聞いて、オオタカを希少種とすることで、その周辺の環境を保護する法や方針を定めている団体が多いと思いました。それによって、環境が保全されていると思うので、解除する必要はないのではと考えます。
- ・オオタカはもう大丈夫と思われてしまいそう(そう思っていました)
- ・十分に検討はしてほしい(どちらに決まるにしても)
- ・技術的に解除。これまでにとどめるべき。従来あったオオタカの保護対策は担保されるべき。
- ・保護・保全の限度について温度差はあるが、要はバランスの問題だと思います。
- ・今日初めてこの問題を知りました。今後もっとよく考えていかなければならないような大きな問題だと思います。
- ・解除の意味とその予想される結果がわかりません。
- ・オオタカの数はずかしく多いと感じる。が、保存法は多方面からの検討を期待します。
- ・反対します。都会でオオタカが見られることは素晴らしいと思うからです。

「賛成」

- ・賛成である。なぜならオオタカを種の保存法から解除することは今までの成果である。この象徴とすべきであると考え。また、オオタカを再び種の保存法にもどさない対策(情報の共有化、地域との連携、新しい法律の制定)を進めていくことが必要である。オオタカ保全の新たなステージと映る必要があると思う。